招かれざる客（1967）

GUESS WHO'S COMING TO DINNER

メディア　映画
ジャンル　ドラマ
製作国　アメリカ
色彩　Color
時間　108分
初公開日　1968/04/06
公開情報　ＣＯＬ
映倫　G
リバイバル　1973/05［ＣＯＬ］

【キャッチコピー】
その人は　招かれざる客－　けれど　私の愛した　ただ一人のひと

【解説】
“招かれざる客”（この邦題はうまい）が優等生Ｓ・ポワチエなので、大体、後半の展開は察しがついてしまうのだが、トレイシーとヘプバーンの名優コンビが、リベラリストたる面の皮を剥がされる新聞社社長とその夫人を演じ、さすがにうまくて舌を巻く、Ｓ・クレイマーの問題作。世界的にその名を知られる黒人医師ジョン（ポワチエ）はハワイで知り合った白人女性ジョーイ（Ｃ・ホートン）と人種の壁を越えて結婚を誓い合い、互いの両親の許しを得るためサンフランシスコのドレイトン家を訪れる。最初戸惑っていた母も、娘の喜ぶ様子を見て次第に祝福する気になるが、だが父マットはそうはいかない。彼は人種差別反対を自ら経営する新聞の論調としてきたが、いざ自分の娘が黒人と結ばれるとなると心境は複雑だ。やがて、ジョンの両親プレンティス夫妻もかけつけるが、彼らも息子の相手が白人とは知らされていず愕然とする。けれども、彼の母も何より子供の愛を信じた。こうして、二人の母同士の強い説得によって、頑迷なマットの心もほぐれ、娘たちの仲を認めてやるのだった。アメリカのある年代のインテリ層には、それでもかなり影響力のあった映画なようで、フレッド・スケピシの「私に近い６人の他人」で、本作とポワチエが思い入れたっぷりに語られる場面があったが、一般に“進歩的”と言われる白人でも、この映画の認識に留まっているのが現在でも実情だろう。ヘプバーンが二度目のオスカー主演賞を受賞し、トレイシーの遺作ともなった作品。

【クレジット】

監督	スタンリー・クレイマー	Stanley Kramer	
製作	スタンリー・クレイマー	Stanley Kramer	
脚本	ウィリアム・ローズ	William Rose	
撮影	サム・リーヴィット	Sam Leavitt	
編集	ロバート・Ｃ・ジョーンズ	Robert C. Jones	
音楽	フランク・デ・ヴォール	Frank De Vol	
出演	スペンサー・トレイシー	Spencer Tracy	マット・ドレイトン
	キャサリン・ヘプバーン	Katharine Hepburn	クリスティーナ・ドレイトン
	シドニー・ポワチエ	Sidney Poitier	ジョン・プレンティス
	キャサリン・ホートン	Katharine Hougton	ジョーイ・ドレントン
	セシル・ケラウェイ	Cecil Kellaway	ライアン神父
	ビア・リチャーズ	Beah Richards	ジョンの母
	ロイ・グレン	Roy E. Glenn, Sr.	ジョンの父

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

イザベル・サンフォード	Isabel Sanford	ティリー
ヴァージニア・クリスティーン	Virginia Christine	ヒラリー・セント・ジョージ
アレクサンドラ・ヘイ	Alexandra Hay	
ダーヴィル・マーティン	D'Urville Martin	
スキップ・マーティン	Skip Martin	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.